

▼コラム

分かり易い土木 第13回 河川の話
堤防に関わる用語

公益社団法人 日本河川協会理事
NPO 法人あらかわ学会事務局長
シビル NPO 連携プラットフォーム 理事
三井 元子



河川用語になじみのない方たちに分かり易く紹介できるよう各界でご活躍の方たちに執筆を依頼しました。どうぞ楽しみながら学んでください。初回は、堤防の各名称をお伝えします。

堤防の名称あれこれ

私たちは土手に上がって川を眺めるとき、これが堤防の中だと思って見ているのですが、河川用語では、「**堤外地**」と呼ばれているのです。川の氾濫から町を守るために堤防を作るので、まさに居住地が堤内と言う概念なのですね。堤防で守られている地域（家や学校がある区域）が堤内地、水の流れている川側を「**堤外地**」といいます。でも面白いのは、法面のことは川の中にあるのを**川表**、堤内地側のことを**川裏**と呼んでいることです。ちょっと混乱しますね。

ところで、右岸、左岸という言葉がありますが、これは川の下流に向かって右側が右岸、左側を左岸と言うのです。では、質問です。下の図の左側に**左岸堤防**という言葉がありますが、この図では下流はどちらになるのでしょうか？

高水敷は、複断面の形をした河川で、常に水が流れる低水路より一段高い部分の敷地です。平常時にはグラウンドや公園など様々な形で利用されていますが、大きな洪水の時には水に浸かってしまいます。

ちなみに、増水した河川の水が堤防の高さを越えてあふれ出す状態のことを**越水**と呼んでおり、あふれた水が堤防の裏法を削り、破堤を引き起こすことがあります。

堤防が壊れ、増水した川の水が堤内地に流れ出すことを**破堤**といいます。

